

以上を以て三月の保育案の談話の概略について記したのであるが、同時に、昨年の三月號に始まつた「毎月の保育」も早や一ヶ月を経たことになりこれを以てこの稿も了るので一言附記させていたゞきたい。談話は安村先生と私とで交替に受持たせていたゞくことになつてゐたのであるが、先生の種々の御都合の爲に、甚だ内容の乏しい拙稿を數多く掲載していたゞくことになつてしまつた。讀者諸姉の爲、誠に申譯なくこゝに紙上を借りて一言お詫び申上げる次第である。また紙數の都合上、保育案にのせられ談話のすべてをこゝにとりあげて説明し得なかつたことをお許しいただくやうお願ひ申上げる。どんなお話にしても、直接聽き手を對象としてなされる談話に於ては、最初にも記したやうに、先づ第一にその話を自分のものにするのが肝要である。その話への心からの共感を持つ人が、その話の最もよき語り手であるといへよう。かゝる點からも、談話を既成の童話のみから選ばず、保姆自身が幼児達に話してきかせたいと思ふことを中心として自ら進んでお話を創作され、話されることが希ましい。切に御勉強を祈つて筆を擱く。

手 技

及川 ふみ

三月の手技はお雛様の仕事を中心となつて進まれてよい。年少の組と年長の組ではお雛様の製作の上にも自ら區別のあるのは云ふまでもない。

年少組では幼児自身でつくるお雛様はこゝろ／＼簡単なものであり、又ものによつては保姆の手をかりする部分も多いことになるのであらうが、年長組ではお雛様ばかりでなく飾りもの、供物など數の上でも亦個々の製作の上でもやゝ手のかゝるものを作られる様になる。

こゝく簡単なお雛様は立雛などを自由畫にかゝせて額式につくる事も一つの方法であるかもしれない。たゞ自由畫として雛をかゝせる時に、お雛様の繪をおきなさいと云ふだけではこちらの期待通りにゆく事は少いかもれない。數日前から保育室などにお雛様の實物や繪などを飾つておいて幼児たちにお雛様を畫く材料の内容を與へておく事を忘れてはならない。又幼稚園内だけでなく家庭や、通園の途中などのおもちやの店頭などに容易に見受けられるやうな場合にもお雛様を見る機会を促すことなどの豫備的なことも心掛けておく事である。

自由畫を切りぬかせ、ボールの空箱などを利用して臺紙としてその上に貼り付けて、これに模造紙などで桃の花などをあしらうても簡単な雛の掛物が出来る。

粘土 雛

新聞粘土でつくる雛も簡單で年少組によい。親王、内裏共に略く同じ大きがよいのであるから大體の型と大きを決める爲に、おもちやお茶碗などの型を使つて作るとよい。頭に銀杏やお豆などを用ひるのもよいから粘土を型からとり出してすぐに柔かい間に粘土の中に銀杏なり豆なりを深くさしこんでおくとよい。充分に陽にかはかして色をぬる。

古はがきのおひな様

古はがきを材料としてのおひな様も数々出来る。大體お雛様の胴の形を圓錐型、立方型、丸型などに古はがきで作つて、それに白い畫用紙などで顔をつけるとよい。型はいつれにしても出来るだけ簡單なものがよい。

古端書を臺にして一部分千代紙などあしらつて作ると美しいお雛様が出る。

古はがきを材料としてお雛様を作る場合は端書の文字が見えない様にクレヨンで色濃くぬつて使ふ事である。

封筒の袋雛

古封筒を利用して袋雛を作ることも出来る。古封筒を縦を二つ切りにして、上の部分も底を糊づけにして、二つの袋にし、模造紙を細く切つて縞模様にしたたり、その他の模様を切りぬいて貼りつけて、お雛様の胴にする。顔は畫用紙で別に作つて袋の内にしこみ頭の部分になるところは、ひだをとつて紐でくくる様にする。

お雛様の製作は現在、内裏をはじめ屏風、臺、櫻橋、お供へなど一揃にとのへるのには製作の材料としては數々あつて一ヶ月二ヶ月分の手技の材料は豊富すぎるほどにあるのである。たゞ幼児の程度、材料の状態、これに費すことの出来る時間などによつて各その持場持場によつて考へて作るのであるが要するにお雛様の製作といふものは雛祭りを幼児たちに喜ばせ楽しませるといふ事が第一の目的とするのであるから製作に無理のない様に保母の方で心掛けなければならぬ。製作そのものゝみを考へて幼児た

ちに多くの負擔をかけすぎて、かへつてその製作をいとふ様なことになつては折角手技のよい材料もだいなしになつてしまふのであるから注意しなければならぬことである。

たゞこゝに心すべきは作られる雛は形や色は出来るだけ單純なものであつても出来上つたものが上品な趣のあるものを選ぶといふ事についてはこれを指導する先生がその趣味の標準を高くもちたいものである。

誘導保育

菊池ふじの

お花屋さん 長い間寒さに閉ぢ込められて、身も心も固くなつてしまつてゐた身に、春の偲びよつて來た氣配を感じた時の喜びは譬へ様もない程である。殊に、子を持つ者に取つてこの喜びは更に大きい。子供は、昔から云はれてゐるやうに、確に風の子であるに違ひない。けれども、あの立ちのぼるかげらふの中に、萌え初める若芽の中に見る子供等の影は又一入に伸びやかである。嬉しい春、待ちこがれる春、早く來い。

扱て三月にお花屋さんの主題はいとも相應はしい。それに、四月、始めて家を離れて入園して來る年少組の御子さん達への贈り物として、今から花籠を作つておくことは手廻しのよい例として賞められていゝ。正に一石二鳥といふべきもの。何故なら四月新學期早々これだけのものを製作する暇はとて無しいし、新入園児には入園の日から「おみやげ」は上げたいしするからである。